

地域情報（県別）

医師158人を抱え、医療機関「第三の存在」めざす－大型クリニックを展開する「めぐみ会」の田村豊理事長に聞く ◆Vol.1

2019年3月27日（水）配信 m3.com地域版

東京都内で10のクリニックを展開し、158人の医師が在籍する。全従業員は527人。医療法人社団「めぐみ会」（多摩市）の田村豊理事長は患者の潜在ニーズを想像し、「病院と個人診療所の間割って入る第三の存在になりたい」と、1つの診療所で幅広く診療しつつ分院展開も図る「大型クリニック」を作ってきた。患者が医療機関に求めていることは何か。大型クリニックのメリットは。田村理事長に聞いた。（2019年2月5日にインタビュー、計3回連載の1回目）

▼第2回はこちら

▼第3回はこちら

――まずは法人の概要についてお聞かせいただけますでしょうか。

当法人は現在、本院の「田村クリニック」がある多摩市や八王子市、杉並区、目黒区、品川区に計10のクリニックと2つの健診室、1つの訪問看護ステーションを運営しています。特徴的なのは1つのクリニックで複数の診療科を標ぼうし、10のうち7つのクリニックで年末年始を除いて無休で診療していることです。例えば最も規模の大きい本院では、消化器内科や循環器内科、呼吸器内科、血液内科など10の診療科を掲げ、25人ほどの医師がそれぞれの専門性を生かしながら診療に当たっています。所属する医師の数は法人全体で158人（常勤医50人、非常勤医108人）で、全従業員数は527人です。直近の業績として、2018年の総収入は約46億円で、法人全体の年間来院数は延べ約70万人でした。



田村豊理事長（多摩市にある法人本部で）

――複数の医師が在籍して幅広く診療するクリニックは首都圏を中心に増えているように思いますが、それにしても規模が大きいですね。拡大を図る理由は？

元を辿れば僕の経歴が関わります。僕は京都大学の法学部を1980年に卒業して旧日本石油（現JXTGホールディングス）に入社し、2年勤めた後に岐阜大学の医学部に進みました。会社では法務部で社員の法律相談に乗っていたわけですが、困った人の世話を焼く仕事が面白く、世話焼きを生業にできる仕事として町医者になろうと思ったのです。

開業医になりたかった僕は医学部卒業後、大学の医局には入らずに徳洲会病院に就職しました。創業者の徳田虎雄先生は当時、「命だけは平等だ」と言っていて、僕も「アクセスの良い医療機関をもっと作るべき」という彼の考えが正しいと思いました。それに、民間企業では何をすればお客さんに喜んでもらえてビジネスになるかを常に探りますよね。僕もそういった環境に身を置いていたので、医療はサービス業だと考えていましたし、医療の世界では患者さんが望むものが手つかずで、新しいタイプの医療機関を作る必要性を感じていたのです。

――「患者が望むものが手つかず」とは具体的に？

「クオリティーの高い幅広い医療サービス」と「アクセスの良さ」です。それは24時間営業の大型食材スーパーのようなもので、品数が多くてそれぞれの質が高く、しかもいつでも買える。そういったものの医療版をつくれれば、患者さんは喜ぶに違いないと考えていました。

医療の世界は長い間、病院と個人診療所の2つの形が主流として続いています。小売りだと昔は個人商店と百貨店しかありませんでしたが、時代が変わるにつれて量販店や通信販売、コンビニエンスストアができました。その一方、医療業界は従来通りのやり方を踏襲すれば患者さんはそこそこ来て医師も食べていけますから、サービス体制の変革が進まなかったわけです。

しかしながら、将来的には大病院でしか高度な医療を受けられないといった医療レベルのギャップは解消されていくと僕は考えています。ひと昔前はデパートの食品売り場とコンビニエンスストアの商品の質には差がありましたが、今ではコンビニでもデパート顔負けのおいしい品が並んでいます。医療は公共性が高いので単純に比較できませんが、都市部で医師が増えて患者を増やさないと経営が厳しい医療機関が増えたことに伴い、患者の消費者としての意識も高まっています。



多摩市にある本院の「田村クリニック」

——より患者にとって利便性の高い医療提供体制が求められると。

そうです。時代の趨勢から、個人診療所と病院だけでは患者さんのニーズには十分に応えられなくなるでしょう。病院はクオリティーは高いのですが、紹介状が必要だったり診療時間が午前中に限られていたりして、アクセスは良くありません。一方の個人診療所はアクセスは良いものの、一人の医師が診療しているわけですから質と幅広さが限られる。つまり、身近さと専門性を兼ね備えた医療機関が必要だと思うのです。僕はめぐみ会が運営するクリニックのような大型クリニックが、病院と個人診療所の間に割って入る第三の存在になれるはずだと考えています。

——多くの医師が在籍する体制をつくることで、アクセスの良さと専門性の高さを実現しているわけですね。

はい。多くの専門医が揃うことでさまざまな可能性が生まれます。まず、クオリティーの高い医療を幅広く提供できます。一人の医師が全ての分野の専門医にはなれないので、当然、医師が多く要るわけです。次に、アクセスの良さが実現できます。医師たちが勤務スケジュールを調整し合うことでほぼ無休の体制をつくれますし、本院と八王子市にある「南大沢メディカルプラザ」では昼休みなしで平日は9時から19時まで診療していますから、長時間診療にも寄与します。さらに、訪問診療に携わる医師がいれば医療のデリバリーという意味で患者さんにとってのアクセスがさらに良くなります。めぐみ会では現在、15人の医師がクリニックのある多摩市と八王子市、杉並区を拠点に訪問診療を行っています。

◆田村 豊（たむら ゆたか）氏

1956年静岡県生まれ。80年に京都大学法学部を卒業後、旧日本石油（現JXTGホールディングス）で2年間の会社員生活を送った後、岐阜大学医学部に入学。89年に同大を卒業後、徳洲会病院、国立がん研究センター、三井記念病院などで主に消化器内科の診療に従事。94年に多摩市で開業し、「患者にとって身近で専門性の高い医療機関を作りたい」と大型クリニックを展開、現在、都内に10のクリニックを構える。多摩市医師会長としても活動する。

取材・文＝医療ライター 庄部勇太

記事検索

ニュース・医療維新を検索

